



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 140
R7. 6. 17
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ！ ～あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん～

熱戦続く！ 校内相撲大会



13日から4年生以上の校内相撲大会が始まり、熱戦が繰り広げられています。



4年生の相撲大会の様子です

さて、大相撲では、先月、大の里の横綱昇進が決まりました。初土俵から13場所での昇進は最も早い記録であり、師匠の二所の関親方（元稀勢の里）以来8年ぶりの日本出身の横綱の誕生に大いに沸きました。

ところで、日本語には、相撲に由来した言葉がたくさんあります。勇み足、大一番、序の口、ひとり相撲、土俵際、待ったなし、痛み分け、ガチンコ、八百長、…等々。日常何気なく使っている言葉ばかりですね。それほど相撲は日本人の生活と関わりのある存在なのですね。

「満ちれば欠ける」

大の里の師匠である二所の関親方（元横綱稀勢の里）が、第72代横綱に昇進した際、先代の師匠から教えを受けた言葉が「満ちれば欠ける」という言葉だったそうです。「今の自分に満足してしまったら、その時点から衰えが始まる。常に自分に厳しく、向上心を持って努力し続けなければならない」という意味が込められているそうです。なんとも良い言葉ですね。

私事ですが、教師としての人生もあと少しを残すばかりとなりました。「満ちれば欠ける」の言葉を座右に置いて、日々精進し、残りの日々を過ごしていきたいと思います。

はっぴょうの力を高める ～指名なし発言～

「指名なし発言」をする3年生



子どもたちの発表力を高める方法は数多くありますが、まずは、子どもたちが「発言する」という場数を踏むことが絶対の条件です。発表の力を高めるためには、子どもが何度も発言する経験を積む必要があります。

このことを野球を例にして考えてみましょう。打者が打ったゴロを捕る経験を何度もしなくては上手になりません。見ていだけで上手になるのでしょうか？ 実際に自分で経験しなければ、上手になりませんよね。失敗しながら、どうすれば上手に捕れるようになるかを考えます。

発言も同じです。発言力を鍛えるためには、何度も発言する経験が必要なのです。

上の写真は、3年生の授業で「指名なし発言」をしている様子です。教師から指名されて発言するのではなく、子ども自身が自分の意思で起立し、どんどん発言していくというものです。教師は、発言できたことを大いにほめます。子どもたちの「はっぴょうの力」が、日に日に高まっています。